

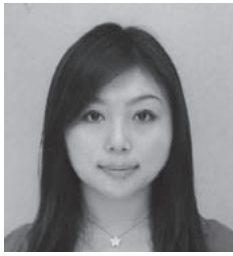
Title	編集後記；奥付
Sub Title	
Author	辻井, 岳雄(Tsuji, Takeo)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2008
Jtitle	Newsletter Vol.4, (2008. 7) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000004-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究員紹介

増田早哉子



4月より「脳と進化班」特別研究教員となりました。

私の関心は、ヒトの社会的認知およびコミュニケーション全般に関わる神経活動にあります。これまで、視線の認識・表情と感情音声の統合や、流暢な発声に関わる神経基盤といった、ヒトの社会的行動において重要な対象に対する神経活動を、機能的MRIやEEGを用いて研究してまいりました。また、難聴児の認知発達についての行動実験も行っています。言語獲得前の失聴は、言語発達遅延だけでなく、社会行動の発達遅延にもつながることを示してきました。

本プロジェクトでは、機能的MRIを用いたヒトの高次脳機能の解明に従事いたします。ヒトが様々な判断を行うとき、論理と感性はどのように関わりあっているのか、認知神経科学の観点から解明していきたいと思っています。

事務局だより

鏡に映った自分の姿を自分だと認識できる能力は、進化及び発達の過程でいつ頃から始まるのか。

本GCOEでは、自己認知の系統発生及び個体発生に関する研究が行われてきましたが、その研究成果の一部が6月12日の毎日新聞に掲載されました。

ハトは自分の姿認識

ハトは自分映った画像を「自分」と認識できることを、渡辺茂・慶応大教授（比較認知科学）の研究チームが発見した。自己の認知が、ヒトの3歳児より優れている可能性があるという。自分の画像を、リアルタイムではなく、ずして見せると、自分か他人かの区別が難しくなる。研究チームはこの特徴を注目し、ハトら羽を使い実験した。リアルタイムでつづく確率は80%以上だが、まな動物が同じ能力を持つ可能性があるという。【大塚あいら】

慶応大チームが発見 数秒前の画像も反応

3歳児よりも優れる？

6月11日にこの研究に関するリリースを配信、翌12日に毎日新聞に掲載されました。

活動予定

- 日仏哲学研究会
「現象学と言語哲学におけるオントロジー」
日時：2008年7月4-5日
会場：慶應義塾大学 三田キャンパス G-SEC Lab.
講演者：Françoise Dastur、Renaud Barbaras、他
- 第31回日本神経科学会特別講演 (Neuroscience2008)
日時：2008年7月10日
会場：東京国際フォーラム
講演者：Richard Frackowiak (ロンドン大学神経画像センター)
- 第31回日本神経科学会シンポジウム (Neuroscience2008)
演題：Neuroscience of self-awareness
日時：2008年7月11日
会場：東京国際フォーラム
企画：安西祐一郎、渡辺茂
講演者：J.P. Keenan、小嶋祥三、開一夫、前野隆
- 慶應義塾創立150年記念ニューロサイエンスシンポジウム
日時：7月12日
会場：慶應義塾大学三田キャンパス北新館ホール
企画：安西祐一郎、渡辺茂
講演者：T. Curran、P. Agre、R. Frackowiak、岡野栄之、他
- 第13回 認知神経科学会学術集会シンポジウム
日時：7月13日
会場：東京大学武田先端知ホール
講演者：渡辺茂、M. Hofman、山本直之、池田謙、伊澤栄一

編集後記

慶應義塾大学人文グローバルCOEプログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点形成」が採択されてから、一年近くが経ちました。初年度は研究施設の充実化を図る活動が多く、今回のニュースレター4号ではMRI研究施設、つくばカラス生態研究施設、三田東宝ビル8F研究施設の紹介を中心に掲載しました。論理と感性の神経機構を探るための研究が、個々の施設における研究がバラバラに進行していくのではなく、お互いの長所短所を見極めて、捕足しあいながら研究が進展していけば良い成果が得られるのではないかと思います。最後に、本号の編集にご協力いただいた皆様に感謝いたします。(辻井岳雄)

慶應義塾大学 論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2008, July, No. 4

発行日 2008年7月10日
代表者 渡辺茂
〒108-0073 東京都港区三田3-1-7 三田東宝ビル7F・8F
TEL：03-5427-1156
FAX：03-5427-1209
coe-office-al@flet.keio.ac.jp
http://www.carls.keio.ac.jp/